

まちづくり懇談会内容

日 時： 令和 6 年 12 月 18 日(水)16:00～17:15

場 所： 鳩山中央公民館

出席者： 13 人

1. 開 会
2. 町長挨拶
3. 懇 談
 - (1) 主要施策の取組状況について 資料①参照
 - (2) 自由懇談
4. その他
 - ・資料②参照 ネイチャーポジティブの実現に向けて
 - ・資料③参照 紙の保険証の発行について
 - ・資料④参照 緊急告知 FM ラジオについて
5. 閉 会

【自由懇談・そのほかの質疑など】

■FM くりやまの電波について

- 町 民 FM くりやまは地域によって電波が悪く聞こえにくい。トラクターで聞いていてもうまく聞こえない。何とかならないのか。
- 総務課長 ご自宅のアンテナ、向きの長さを変えて、①アンテナの向きを調整する、②ラジオの置き場所を変える、③T 型 FM アンテナを設置する、④テレビアンテナを、各家庭のテレビアンテナを使った同軸ケーブルへの接続など。①、②で改善されない場合は、③、④といった形での対応をお願いしている。屋外ではスマートフォンのアプリ「レディモ」を利用する方法がある。配付している FM ラジオは電源が入っていないなくても自動起動して緊急情報をお伝えすることができるもの。防災力を高めるためにもぜひ利用いただきたい。

■馬追橋の工事について

- 町 民 小林酒造のところの馬追橋の工事は、いつできあがるのか。カーブがあるので冬期間は危ない。
- 町 長 今の計画では、橋自体は令和 7 年度中に通行できるようになり、令和 8 年度に取付道路を含めて完了する。町のほうでも並行して小林酒造の周りを散策できるようにする計画。

■ごみの分別の変更について

- 町 民 今年の 4 月にごみの分別が変わったが、町民からの評判・評価はどのような感じか。木の剪定をした際に出る枝などの自然木の受け入れをしなくなるような話を聞いたが桜山で受け入れしてくれるのか。

環境政策課長 今年の4月から広域の焼却施設を使用することになり、千歳に燃やせるごみを運ぶようになったことで分別方法も変わった。袋が変わるので1年かけて説明してきたが、なかなか浸透するのは難しく、使えなくなるごみ袋を大量に買ってしまっていた方もいる。今月までだが、炭にできないごみ袋を燃やせるごみとして出すことのできるシールを配布している。変更点は、ひとつが、燃やせないごみの種類が20種類くらいまで減ったことで、燃やせるごみを出すものがかなりなくなったこと、もうひとつが、燃やせるごみ以外のごみは基本的に分別方法が変わっていない変わっていないこと。町もできるだけごみを出さず、資源にできるものは資源にしたいと考えているのでご理解いただきたい。なんでも燃やせるごみにだせると誤解されている部分もあり、それでは経費が掛かってしまうので分別のご協力いただきたい。自然木は受け入れてくれる事業所が受け入れられなくなるので、対応を検討している。決まり次第周知したいと考えている。

■ごみの最終処分について

町 民 最終処分場で燃やせるごみは、岩見沢市で処分してもらおうと思うが、ごみの量に応じてお金がかかっているのか。

環境政策課長 焼却灰はそれぞれの自治体で処分することになっており、本町では岩見沢市にお願いしている。計量した灰に応じて費用が決まってくる。資源にできるものは、資源ごみにすることで費用を削減できる。生ごみを減らすための取り組みとして今年からコンポストの購入に対する補助制度も設けた。

町 長 今は、一時的に岩見沢にお願いしている。令和16年には、2市4町の広域で最終処分場を整備する計画になっている。場所については選定を進めており、コンサルが絞り込む作業をしている。

■予防接種の補助について

町 民 带状疱疹ワクチンの予防接種の費用を700位の自治体が独自の予算をつけて補助している。補助があることが接種の後押しになると思うが補助する考えはあるのか。

住民保健課長 带状疱疹ワクチン、新聞でも載っていた。厚労省で来年の4月から予防接種ができるような体制を考えているが書かれていた。予防接種には、個人の感染を防ぐもの、感染が広がっていく感染を防ぐものが分かれているが、4月からは、肺炎球菌とかインフルエンザと同様になっていくことが予想され、そうすると本町では接種費用の半額を補助する考え方になると思う。明日、全国市町村への説明会が開かれ、そこで国の方向が示される予定。その説明を受けてから予算等の体制を整えたいと考えている。

■企業誘致・人口減少対策について

町 民 栗山町の人口が減っていくと寂しくなってくる。今では子どもが出ていく一方。本州から企業を誘致して、たくさんの人に住んでもらい子どもが生まれてほしい。企業がないと栗山町に子どもが残らない。

町 長 人口減少対策は1丁目1番地の課題である。どこの町も人口減少で苦労しており、2か月前には長沼町も1万人切ってしまい、空知管内17町のなかで1万人以上の町は本町だけになった。しかし、これまでの傾向で行くと3年後には1万人を切ってしまう見通し。人口減少を食い止めるのは難しいが、減り方を鈍化させていくことが重要である。工業団地を造成したので、ラピダス関連の企業誘致などを頑張りたい。総合的な対策をとって、住みやすさが栗山町の魅力だと考えている。医療が整っていることや、子どもたちの教育も自然豊かな中で進めることができる。町全体の総合力を上げていきたい。移住してくれる方への支援のため移住定住促進事業に力を入れているなかなか結果がでていない状況。粘り強く進めたい。

■町は受け身になり過ぎでないか

- 町 民 町の福祉の面も、税収が上がらないと町民からの要望にこたえるのは無理ではないか。税金を払っているから偉いというわけでない。あまりにも町が受け身になって聞ってくれるので、シビアにしないと夕張市のような財政破綻とまではいかないだろうがもたないと思う。町がやってもらいたいことは示してもらった方がいい。町は言いたくないことにふたをしているような気がする。税金を払えば何でもしてあげるよという風に見えてしまう。
- 町 長 身の丈に合った町政運営を進めることが重要。平成 14 年、15 年に、小泉内閣が三位一体改革を行い、町の収入の 1/3 を占めている交付税が減らされてしまった。市町村財政が厳しくなりどの市町村も行財政改革をして何とかその時期を乗り越えてきた。その時には、町税の値上げ、公共施設使用料の値上げ、各団体への補助金をカットするなどしてきた。今は、その時期と比べ財政状況も好転してきた。余裕はないが切羽詰まった状況からは上向いている。2,30 年たつと、今の人口 1 万人が、7 千人、6 千人になると推計が出ている。いくら努力しても減っていくことは間違いない。公共施設や水道、下水道なども 1 万人でみていた維持管理を 6 千人でみなければならぬ時期がいずれ来る。水道、下水道料金が本町は高いといわれているが、6 千、7 千で賄っていかなければならない。公共施設も減った人口で同じだけ見ていくことはできないので同じようなものがあれば、古いほうをなくすなどしなければならない。除雪の関係では、除雪の在り方検討会議を昨年作って、出動基準や、施工管理基準を見直してなるべく町民の皆さんの足の確保をしようということできめ細やかに行っている。問題になっているが置き雪対策。すべてを行政がやることにはならないので、町民の皆さんにも協力をお願いすることもあるかと思う。そういった時には丁寧に現状を説明したうえで、何を町民の皆さんにしていただけなければならないのか、どんな負担をしてもらわなければならないのかをしっかりと相談したうえで進めて行きたい。

■マイナ保険証の資格確認書について

- 町 民 資格確認書は発行され続けられるのか。
- 住民保健課長 資格確認書は、国により当面の間は市町村で送付することとしているが、当面というのがいつまでかというのが定かでない。本来は本人からの申請により交付することになっているが、将来的な部分は決まっていない。

■マイナンバーカードの運転免許証について

- 町 民 マイナンバーカードに免許証の機能が加わると聞いているが
- 町 長 来年の 3 月に向けて準備が進められていると聞いている。

■保険証の再発行について

- 町 民 保険証をなくした場合、再発行ができなくなったと聞いたが、役場に行って資格確認書もらえばいいのか。
- 住民保健課長 マイナ保険証を登録されていない方は、資格確認書を発行する。